

## 【動画説明文】

「在宅がん診療における医療コミュニケーション」を学修目標としたシミュレーションに、JaMITAC 式医療面接訓練士®（模擬患者・家族）は、下記の設定に沿って、大橋裕子・美佐子母娘の「人生の物語り」を紡いで、臨みました。

- 患者：大橋 裕子（おおはし ゆうこ） 68 歳 女性。肺がんステージⅣ
- 半年前 1 か月続く咳があるため、近くの医院を受診。肺に陰影があることを指摘され、大学病院で精査した。
- 右肺腺がんの診断。発見時には肝転移、左がん性胸膜炎が指摘された。
- 外来と入院で抗がん剤治療を繰り返し行ったが、両手足症候群となり、手足のしびれが強い。医師からは治療法はないと言われている。
- 抗がん剤治療の効果がみられず、副作用もつらいことから、病院主治医から抗がん剤治療を中止して在宅療養を勧められた。
- がんは治ることなく、残された時間は 3 か月程度と説明されている。
- 手足のしびれは現在も持続していて、冷やさないようにしているが、症状に変化はなく、趣味の手芸など細かい作業をうまく行うことができない。
- 料理も疲れて時間がかり、主婦としての役割が果たせないことをつらく感じている。
- 夫は設計事務所を自営している設計士。自宅となりのビルが事務所であるが、仕事で留守にすることも多く、患者は一人で過ごすことも多い。
- 独身の長女が近隣に在住。会社員をしているが、現在はリモート中心で仕事をしているので、昼間は実家でテレワークをしながら母を見守っている。
- 長男は隣県に在住。車で 1 時間 30 分ほどかかる場所に住んでいる。妻と 11 歳の男の子（孫）がいる。孫は来年中学受験の予定。

\* 本ビデオの撮影においては、表情の重要性の観点から演者全員の了解のもと、あえて一部マスクを使用せずに撮影いたしました。